

国立大学法人金沢大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

金沢大学は、大学の活動が 21 世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、人類の知的遺産を継承・革新し、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって運営に取り組むこととしている。第 2 期中期目標期間においては、大学に優位性が認められる研究を推進することにより、世界的研究・教育拠点の形成に努めること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「グローバル人材育成推進機構」、「先端科学・イノベーション推進機構」及び「国際機構」を設置して、三本の矢による「東アジアの知の拠点」を目指した教育研究組織の改革を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第 2 期中期目標期間において、千葉大学、長崎大学との間で、それぞれの強み、特色を活かした予防医科学分野の共同大学院の設置に向けた連携を推進する計画（平成 24 年度に中期計画を変更）を定めて積極的に取り組んでおり、平成 24 年度においては、育成する人材像、教育プログラム、遠隔授業システム、事業の実施体制、予算の執行管理等について協議をしている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- グローバル人材事業を全学的取組とするため「グローバル人材育成推進機構」を、基礎研究から応用研究まで一貫した研究支援体制を構築するため「先端科学・イノベーション推進機構」を、学内の国際組織を統合して「国際機構」を設置して、「東アジアの知の拠点」を目指した教育研究組織の改革を進めている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 15 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- 〔①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善〕

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 先端科学・イノベーション推進機構に配置しているリサーチ・アドミニストレーター（URA）により大型事業の申請サポートを実施した結果、「地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業」（文部科学省）等 6 つの事業が採択されている。
- 「創基 150 年記念留学生支援キャンペーン寄附募集」を学長を中心に展開し、平成 24 年度は平成 20 年度の基金制度創設以降、年間最高額となる約 5,600 万円の寄附を得ている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- 〔①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進〕

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- 〔①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守〕

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 過年度において、職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組を引き続き行うことが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 16 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 共通教育科目をパッケージ化した共通教育特設プログラムに、「歴史学」、「キャリアデベロップメント」、「健康・自己管理」を新たに開設・拡充するとともに、全学で共有する成績評価基準を定めている。
- 附属図書館において、学生への学習支援を効果的に行うことを目的として、静岡大学及び名古屋大学との間で、学習支援促進のための 3 大学連携事業に関する協定を締結し、「ラーニング・コモンズ」を活用した学生の学習支援を一層発展させることとしている。
- 環日本海域環境研究センター臨海実験施設が、日本海域環境学分野の教育関係共同利用拠点として新たに認定を受け、生物多様性を個体及び分子の両面から教育する臨海実習では全国の 11 大学から延べ 138 名が参加している。
- 大学の強いところをさらに強くする「金沢大学戦略的研究推進プログラム」に、異分野融合研究・新学術領域の創出や国際共同研究を推進する目的の「次世代重点研究支援プログラム」を新たに設定するとともに、研究課題 10 件を採択し支援している。
- 「能登里山マイスター」養成プログラムを発展させた「能登里山里海マイスター」育成プログラムを開始し、地域のリーダーを 3 年間で 60 名輩出することを目指し、教育カリキュラムの開発や講師の派遣などプログラム運営を全面的に担っている。
- 国立 6 大学（千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学）において、グローバル社会をリードする人材育成の推進と学術研究の高度化を目的とした包括連携協定を締結するとともに、ASEAN 大学連合（AUN）との交流促進等を目的とした「国立六大学国際連携機構」を設置し、共同学生交流プログラムの実施等の国際交流事業等に取り組むことを決定している。
- 既存の国際関係の組織を「国際機構」に統合し、国際戦略に基づいて留学生に係る諸施策の立案・実施を迅速に行うとともに、留学に係るワンストップサービス等の実現を目指している。

附属病院関係

（教育・研究面）

- 地域との連携が密にとれるよう教育関連施設を増やすなど、平成 22 年度に卒後臨床研修プログラムを改正したことで、平成 24 年度の帰学率（（卒業生が専門医研修で出身大学に残る数＋戻る数）／卒業生数）が約 6 割（プログラム改正前約 4 割）に改善されている。

（診療面）

- 大学と県内の医療機関が「たまひめネット」により、患者の電子カルテの情報を閲覧、共有出来るようになったことで、検査の無駄や薬の重複投与の防止に役立っている。

(運営面)

- 附属病院職員が安心して働くための職場環境整備の一環として、院内に夜間保育室「きらきらぼし」を開設し、平日夜間及び日曜日の保育を実施している。